

令和4年度 高等部研究

I 研究テーマ

「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる授業実践の取組」 ～ 各教科等との関連を意識した作業学習の授業実践と改善 ～

II 研究テーマ設定の理由

令和3年度当初、新たに全体研究テーマに基づいた学部研究に取り組むにあたり、以下の3点に基づいて学部研究テーマ及びサブテーマを設定した。詳細については令和3年度の研究の中間まとめ資料を参照いただきたい。

- 1 学校教育目標・学部教育目標から
- 2 高等部の授業づくり（作業学習）から
- 3 これまでの学部研究から

III 1年次の研究について

1 研究内容与方法について

1年次の研究では主に以下の内容に取り組んだ。詳細は令和3年度の研究の中間まとめ資料を参照いただきたい。

- (1) 学部研究の基本構想と共通理解
- (2) 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」の検討と共通理解
- (3) 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」を活用した授業実践とPDCAサイクルによる授業改善の取組
- (4) 授業づくりシート等のさらなる活用と改善
- (5) 研究のまとめ

2 研究の成果と課題

一年間の研究を受け、1年次の成果と2年次の研究に向けた課題を以下にまとめる。

(1) 成果

① 「できる状況づくり」について

各作業班で現状の「できる状況づくり」を確認し、さらに生徒ができることが増えるように今後取り組める「できる状況づくり」を協議しながら授業改善を行ってきた。「できる状況づくり」を意識した授業を行うことで、子どもたちの自信につながってきている。その自信が、「人に教える」「自分から挨拶をする」「自分から報告をする」「責任をもつ」「時間を意識するようになった」「家でも調理をするようになった」等、生活の中でも生徒の変容がみられるようになってきた。

② 「各教科等に分けて考える視点」をもつための取組について

「各教科に分けて考える視点」をもつために、作業班毎に目標や評価についてどの教科と

関わりがあるか検討し、各教科等との関わりを作業班毎に共通理解することで、ほとんどの教員が各教科等との関わりを再認識したり、意識して授業を行ったり、授業改善することができるようになってきた。

③ 授業づくりシートの活用について

昨年度までの研究で様式を検討してきた「授業づくりシート（単元計画シート、授業記録シート）を作業目標と各教科との関わりを見出しやすくするように改善し、2回の授業参観週間で活用した。それぞれの授業を検討する際、授業づくりシートを活用することで、以下の成果を得られた。

- ・各教科を意識して授業したり、改善したりすることができた。
- ・関わる職員がどこにポイントを置いて指導すれば良いか引き継ぎをすれば良いか明確になった。
- ・「関する教科」をポイントにして見直すと、十分取り入れてできている点、教科をもう少し取り入れた方が良い点が明らかになった。
- ・問題点が明確になり、指導改善に役立った。
- ・職員が情報を共有することによって、指導が統一された。

授業づくりシートの活用により、上記のように、教師の見方・考え方が変わることで、生徒にも良い影響が出ている。以下に各作業班で見取った生徒の変容をまとめる。

- ・次の課題を生徒も職員も意識して考えるようになった。（食品班）
- ・生徒の目標を共有することで指導に統一性や系統性が生まれ、効果的な指導ができた。その結果、決められた範囲の草をきれいに取れるようになり、範囲も広げることができた。（農耕班）
- ・出来高の個数を記録することで、生徒の技術力の向上が目に見える形で確認できた。明確に確認することで生徒への声掛けを行う際、具体的で前向きな言葉掛けが多くなり、生徒の作業意欲・自信が高まった様子が感じられた。（縫製班）
- ・毎日目標を設定することで、細かな指導ができるようになった。それにより、生徒も目標や、やることが分かりやすくなり、意識して作業に取り組めるようになった。（リサイクル班）
- ・授業づくりシートを活用したことによって、次への課題が明確になり、課題達成の機会が増え、生徒の自信につながった。（受託班）
- ・授業づくりシートを活用したことによって、生徒の成果と課題が明確になり、教師のアプローチがスムーズにできた。生徒の課題をより具体的な表現で目標にし、伝えることで（丁寧に作る→ひびが入らないように作る、粘土を落とさないように等）、生徒が目指す目標がはっきりし、生徒のモチベーションがあがったり、課題克服がスピードアップしたりした。（陶芸班）

(2) 課題

① 各教科等との関連について

各教科等との関連を意識できるようになってきているが、さらにどの教科のどの力がついたのかを見取る力をつけることで、子供の実態をより細かく見取り、次に期待する子どもの姿をより具体的に思い描きながらの授業づくり、授業改善をしていきたい。そのために、各教科等に分けて考えることの意味の確認や各教科等を意識した授業をしたことで成長した子どもの姿の確認をして、より具体的な子供の姿をとらえる授業づくりを目指していきたい。

② 授業づくりシートの様式について

各教科等を通した子どもの実態が捉えやすくなるようなシートの工夫や態度などの行動面と各教科等との関連について学部全体で検討していくことで、各教科等への意識がさらに高まり、生徒の姿をより具体的に見たり目指す生徒像に近づくことができたりすると考える。

IV 2年次の研究の内容と方法

- 1 学部研究の基本構想と共通理解
- 2 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」の検討と共通理解
- 3 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」を活用した授業実践とPDCAサイクルによる授業改善の取組
- 4 授業づくりシート等のさらなる活用と改善
- 5 研究のまとめ

V 研究計画

月	期日, 内容	主な内容
4	18日 学部研①	・令和4年度前沢明峰支援学校全体研究計画(案)の概要について周知 ・学部研究の方向性について提案・協議
5	18日 学部研② 27日 全体研究会①	・学部研究の内容, 計画等について協議, 資料の検討 ・授業研究会担当者(作業班)の検討 ・学部研究について全体に提案
6	16日 学部研③	・高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について検討
7	8日 授業研究会①(小) 21日 学部研④	・小学部の授業提案についての協議 ・高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について共通理解 ・単元の目標設定の視点の確認
8	18日 学部研⑤	・「できる状況づくり」について検討
9	5～9日 授業参観週間① 16日 学部研究会⑥	・授業記録シートを活用した授業実践 ・授業参観週間(授業実践)の振り返り

	28日 授業研究会②（中）	・ 中学部の授業提案についての協議
10	20日 学部研⑦	・ 授業参観週間に向けた計画、準備
11	11日～17日 授業参観週間② 17日 学部研⑧ 18日 授業研究会③（高）	・ 授業記録シートを活用した授業実践 ・ 授業参観週間（授業実践）の振り返り ・ 高等部の授業提案についての協議
12	15日 学部研⑨	・ 学部研究のまとめ、反省
1	16日 学部研⑩	・ 学部研究の反省 ・ 学部研究のまとめ、全体研究会資料の検討
2	16日 学部研⑪ 24日 全体研究会②	・ 全体研究資料の確認
3	10日 学部研⑫	・ 次年度の研究内容についての意見交換、方向性の確認

VI 研究の推進にあたって

1 高等部の授業づくり（作業学習）

- (1) 「働く」ことを学校生活の中心に据え、「作業学習」に取り組む。
- (2) 生産や販売活動をとおして卒業後の「働く」意欲を高められる授業づくり
- (3) 個に目を向け、高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」に沿った目標設定と評価を生かした授業づくり

2 「できる状況づくり」

- (1) 具体的内容の探索
- (2) 「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の3観点で整理

3 「各教科に分けて考える視点」

- (1) より具体的に子どもの姿を捉え、自立的・主体的な姿を目指した授業づくり、改善
- (2) 各教科等を通した子どもの実態が捉えやすくなるようなシートの工夫

VII 研究の実際

1 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について

学部目標や作業学習のねらいを踏まえ、それらを達成するために教育課程の中心である作業学習における生徒の具体的な実態や様子から「育成を目指す資質・能力」について整理し、明確にした。

(1) 資質・能力の三つの柱に沿った具体的な姿の整理

高等部作業学習における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」について具体的な生徒の姿を作業班ごとにワークショップを行った。高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について具体的な姿を各作業班で意見交換した【図1】。高等部作業学習における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」についてワークショップの記録【表1】をまとめた。また、学部研究会を通して職員間で確認し、共通理解することができた。

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」ってなんだろう？

作業班

<p>観点</p> <p>手順 丁寧 正確 出来栄 挨拶 たくさん 素早く 安全</p>	<p>ワード</p> <p>イメージ：●●を理解している。 ●●の知識を身につけている ●●することができる。 ●●の技能を身につけている</p> <p>例：手順がわかり正確に作業する。</p> <p>道具や手順など 作業の継続 目的を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道具の名前がわかり正しく使える 手を動かして作業ができる 安全に道具を扱うことができる 一定時間継続して作業することができる 手順がわかる 道具の使い方がわかる 理解、工組み 安全 技術の向上 スキルアップ 扱う材料素材を限定している意味がある
<p>確認 自分で 報告 見る 依頼 質問 相談 返事 チェック 修正 判断</p>	<p>イメージ：作業学習の特性に応じて育まれる考え方や視点を通じて考えたり、判断したり、表現したりしている。</p> <p>例：手順を考え、道具を配置する。</p> <p>交力率を考える力 知識をもとにした 表出</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問や報告を自分からできる 自分で気がついて重かける わからないことはその場で聞く 作業の終了時に報告ができる 作業する時間と考える時間を分けて考える よく作業ができる こちらの問いかけに考えて返答できる 作業の進捗を考へて、また、やり直さなければならない 報告書(定型文ではない)ができる
<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>イメージ：主体的に知識・技能を身につけたり、思考・判断・表現をしようとしていたりしている。</p> <p>例：自分から作業に取り組み、仲間と出来栄を共有しあう。</p> <p>働くことの意味 たのしみ、喜び やりがい、が 感じられる</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業をしようとする意欲 時間いっぱいその場にいる 一緒に働く人と仲よくできる 作業の進捗がわかり、作業の質がある 働くことの意味を考へることができる 喜びを感じる 完成やできあがりの期待感 仲間の仕事の尊重

【図1】 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について具体的な姿について行ったワークショップの記録

【表1】 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」

<p>【知識及び技能】 作業の手順や道具の使い方を理解し、正確に作業する。</p>
<p>【思考力・判断力・表現力】 自分で考えて作業を進め、必要な質問や報告をする。</p>
<p>【学びに向かう力・人間性】 目標を意識し、仲間と関わりながら意欲的に作業に取り組む。</p>

(2) 整理した三つの柱に沿って単元の目標設定

高等部で共通理解した作業学習における「育成を目指す資質・能力」の三つの柱にそった具体的な姿を参考に作業班毎にワークショップを行い、単元の目標や評価の視点【図2】を思考し、そこから個人の目標設定、評価の視点【図3】を考えた。

令和4年度 7月学部研究会 ワークショップシート (縫製) 班

◎単元について

単元の目標	観点	評価の視点
工程表を見ながら、一人で作業を進めることができる。	知識及び技能	・手順通りに作業をする。
・間違いに気付き、すぐに報告をすることができる。	思考力・判断力	・良否の判断ができる。 ・すぐに報告ができる。
・製品の質やスピードを意識して作業をする。 ・意欲的に作業をする。	学びに向かう力・人間性	・規格通りに仕上がっているか。 ・目標数を達成したか。 ・より高い目標を自ら設定することができる。

【図2】「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿って思考した単元の目標ワークショップシート

◎9月授業参観週間 授業参観シート作成対象生徒2名 ※実態の違う生徒が望ましい

対象生徒3年		
対象生徒の単元の目標	観点	対象生徒の評価の視点
・工程表を見ながら、一人で作業を進めることができる。	知識及び技能	・教師への確認回数が減っていく。 ・手順通りに作業をする。
・自分で判断しながら作業を進めることができる。	思考力・判断力	↓
・製品の質やスピードを意識して作業をする。 ・意欲的に作業をする。	学びに向かう力・人間性	・規格通りに仕上がっているか。 ・目標数を達成したか。 ・より高い目標を自ら設定することができる。

対象生徒3年		
対象生徒の単元の目標	観点	対象生徒の評価の視点
・一人で作業を進めることができる。	知識及び技能	・正確に図案通りに作業しているか。
・間違いに気付き、すぐに報告をすることができる。	思考力・判断力	・話しスピードと伝えない内容を明確に ・意欲的に伝える
・製品の質やスピードを意識して作業をする。 ・意欲的に作業をする。	学びに向かう力・人間性	・目標を自ら設定し達成できる。

【図3】「育成を目指す資質・能力」の三つの柱に沿って思考した個人の目標ワークショップシート

2 授業記録シートを活用した「できる状況づくり」の検討

授業記録シートを活用し、個人の目標、活動内容についての支援について『目標達成のために考えられる「できる状況づくり』として「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の3観点で整理した。

(1) 活動に関連する教科でみる視点

授業記録シートに記入する活動内容に関連する教科を記載することとした【図4】。

◎活動内容と「できる状況づくり」

主な活動	目標	活動内容 (関する教科)	目標達成のために考えられる「できる状況づくり」		
			ヒト (伝達と共感)	モノ (道具と場の設定)	コト (活動内容と展開)
あづま袋	・ミシンを使って安全に、早く仕上げる。 ・アイロンをさわなくかけることができる。	・布を三等分に折る。(数学) ・ミシンで縫う。(家庭) ・アイロンで仕上げる。(家庭)	・質問をしやすいように、適切な距離を置いて見守る。	・作業をしやすいように、個人のかごを準備する。 ・作業工程表を準備する。	・直線縫いで仕上げられる教材を設定する。
ランチオンマット作り	・必要に応じて工程表を見ながら1人で仕上げる。 ・ミシンを使って安全に、正確に仕上げる。	・2枚の布の端を合わせる(家庭) ・工程表通りミシンで縫う(家庭)	・質問をしやすいように、適切な距離を置いて見守る。	・作業をしやすいように、個人のかごを準備する。 ・工程表を準備する。	・直線縫いで仕上げられる教材を設定する。 ・折ったり縫ったりがしやすいように、大きいサイズの教材を準備する。

※縫製班のかご (①用具と材料を入れておくため ②整理整頓・安全のため)

【図4】授業記録シート活動に関する教科

(2) 具体的な姿から支援を3観点で整理

授業記録シートに記入する支援について「目標達成のために考えられる『できる状況づくり』」という項目で「ヒト（伝達と共感）」「モノ（道具と場の設定）」「コト（活動内容と展開）」の3観点で思考した【図5】。

◎活動内容と「できる状況づくり」

主な活動	目標	活動内容 (関する教科)	目標達成のために考えられる「できる状況づくり」		
			ア 精一杯取り組める状況 ヒト（伝達と共感）	イ 首尾よく成し遂げられる状況 モノ（道具と場の設定）	エ 活動内容と展開 コト（活動内容と展開）
あづま袋	・ミシンを使って安全に、素早く仕上げる。 ・アイロンをしわなくかけることができる。	・布を三等分に折る。(数学) ・ミシンで縫う。(家庭) ・アイロンで仕上げる。(家庭)	・質問をしやすいように、適切な距離を置いて見守る。	・作業をしやすいように、個人のかごを準備する。 ・作業工程表を準備する。	・直線縫いで仕上げられる教材を設定する。
ランチョンマット作り	・必要に応じて工程表を見ながら1人で仕上げる。 ・ミシンを使って安全に、正確に仕上げる。	・2枚の布の端を合わせる(家庭) ・工程表通りミシンで縫う(家庭)	・質問をしやすいように、適切な距離を置いて見守る。	・作業をしやすいように、個人のかごを準備する。 ・工程表を準備する。	・直線縫いで仕上げられる教材を設定する。 ・折ったり縫ったりがしやすいように、大きいサイズの教材を準備する。

※縫製班のかご (①用具と材料を入れておくため ②整理整頓・安全のため)

【図5】 授業記録シートの目標達成のために考えられる「できる状況づくり」

3 授業参観週間（授業実践）の実施

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」を具体的に認識し、目標設定や評価の視点について授業記録シートを活用した上で指導案を作成し、授業づくりに取り組んだ。授業参観週間を実施することで授業を見合い意見交換を行った。「活動」「実際の支援」「評価」を記録し、単元の成果と課題を授業記録シートにまとめた【図6】。

授業記録シート 2022

◎実際の活動と評価

活動（関する教科）	実際の支援	評価（実現した姿）
○あづま袋作り ・布を三等分に折る。(数学) ・2か所直線縫いする。(家庭) ・アイロンで仕上げる。(家庭)	・工程表を見ながら、一緒に確認する。 ・真っすぐ縫えるように、布の端と抑え金の端を合わせることを確認する。 ・アイロンがけの手本を示す。	・目分量で三等分に折れるように検討をつけ、教師と確認しながら行うことで、自信をもって取り組み、不要な確認が減った。 ・一人でも真っすぐに縫えるようになった。 ・しわがなく、アイロンがけができるようになった。
○ランチョンマット作り ・布と布の端を合わせる。(家庭) ・縫った部分にアイロンをかける。(家庭) ・ミシンで縫う。(家庭)	・慣れるまで、工程表を参照しながら、教師と一緒に確認する。 ・角を直角に仕上げるため、アイロンの手本を示す。 ・縫う場所を印付けする。	・何度も作業し、把握している工程も、工程表を教師と一緒に確認しながら作業を進めることで、徐々に自信をもって自分から取り組んだ。 ・工程表と行動が一致し、自分から取り組んだ。 ・正しいサイズで仕上げられるようになった。

◎単元を振り返って

○成果	・工程表通りに作業することができた。 ・作業内容によっては、作業の良否を自分で判断することができ、確認回数が減り、その結果作業量が増えた。 ・自分から確認を求めるが、教師が確認しても行動に移すまでに時間がかかることがあった。
○課題（今後へ）	・一つ一つの行動がマイペースである。工程表をポイントを絞った工程表にし、確認するタイミングを減らすようにすると無駄が減るのではないか。また、素早い行動ができる生徒を近くの席にし、影響を受けやすくすることも試みていきたい。 ・本人が確認が多いことを理解しているのか、確認する。

【図6】 授業記録シート「実際の活動と評価」「単元を振り返って」

Ⅷ 研究のまとめ

1 成果

(1) 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」の明確化

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について共通理解することで、単元や個人の目標について3観点に沿って具体的に設定できた。このことで、作業班内の指導者間で目指す方向性が一致した統一された指導につながり、生徒については落ち着いて作業に集中することやスムーズな指示の受け入れにつながった。

(2) 活動を教科で捉える視点

授業記録シートを活用し、生徒の活動内容について各教科を意識した視点をもつことで、指導者が生徒の具体的な姿を捉え、目標設定や手立てを共有した。手立てや支援方法を整理し、作業班の指導者が共通した観点で生徒の指導を繰り返した。目標を明確にしたことで生徒の主体性や自信につながった。

(3) 「ヒト」「モノ」「コト」で考える「できる状況づくり」

授業記録シートの個人の活動内容についての支援を「ヒト」「モノ」「コト」に分けて考えた。具体的にシートに書き出すことで、一つの活動に対しての支援を細分化し、具体的な内容になったことで教師間のズレのない支援の共有につながった。

生徒への支援が細かい部分まで統一されたことでスムーズに活動に取り組む生徒やコミュニケーションなどそれぞれの目標の達成につながった

(4) 授業記録シートの活用

学部研究会の中で作業班ごとに授業記録シートの内容についてのワークショップを行った。授業記録シートを通して指導者全員が個々の生徒の課題や目標について共有し、生徒の実態について情報交換したことで生徒を多面的に捉え、生徒一人一人の具体的な課題と改善点をイメージすることに繋がった。ワークショップを通して次の授業へ活かすことができた。

2 課題

(1) 高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」の定着

高等部作業学習における「育成を目指す資質・能力」について3つの観点を示したが、まだ、定着には至っておらず、目標設定や評価の視点に活用できなかったというアンケート結果が見られた。目標設定、評価について「育成を目指す資質・能力」の観点を活用していきたい。

(2) 授業記録シートを活用した授業づくりのPDCAサイクル

高等部研究のアンケート結果の中に「一つの単元で完結せずに、次の単元に活かすことが大事」「授業に対して後追いで作成してしまった」という回答が見られた。今回学部研究会を機会に授業記録シートの作成を行ったが、本来、日常的に活用し、次の授業、次の単元へとつなげていくことで最大の効果が得られるものとする。生徒の実態や活動内容など日常的に記録できるようなシートの活用方法を考えていく。

【参考・引用文献】

- (1) 名古屋恒彦, 「各教科等を合わせた指導」エッセンシャルブック, ジアース出版社, 2019
- (2) 名古屋恒彦, わかる! できる! 「各教科等を合わせた指導」教育出版, 2016
- (3) 子ども主体の教育研究会, 「各教科等を合わせた指導 ガイドブック 生活単元学習・作業学習の進め方 Q&A」K&H, 2009
- (4) 特特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編 (上), 文部科学省, 2019
- (5) 岩手大学教育学部附属特別支援学校研究紀要「児童生徒の確かな力を育む学びを目指した授業づくり」2021
- (6) 前沢明峰支援学校 令和3年度全体研究(中間まとめ) 前沢明峰支援学校 HP 2022
- (7) 前沢明峰支援学校高等部 令和3年度高等部研究(中間まとめ) 前沢明峰支援学校 HP 2022